

きじむんの どう～ちゅいむに～ 古文書入門編

へんがく しょふく れん 第6回：扁額・書幅・聯

キーワード： がくじふえん 学而不厭・ よよそのびをなす 世濟其美・ ふりようしゅうこうちゅうこうにだいに 涪陵周煌忠孝二大字

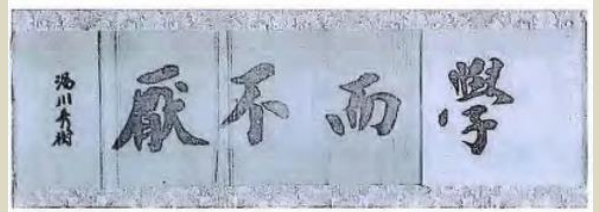
ぐすーよー、ちゅーうがなびら!(みなさま、こんにちは!) 今月は、床の間や仏壇を飾る扁額、書幅、聯についてご紹介しますよ～ 読んでね～!



扁額・書幅・聯って何?

●扁額

扁額とは、門や鳥居、室内に掲げられた、文字の書かれた額のことで、横書きが一般的です。書かれた文字には、建物の名称や記念としての言葉、宗教的な言葉や故事などが選ばれます(画像①)。



①湯川秀樹書「学而不厭」(1963):琉球大学附属図書館蔵
『琉球大学附属図書館報 びぶりお』No.123 P.21

●書幅

書幅とは、書を紙や布で裏打ち補強し、軸や巻物に仕立てたもの(この技術を表装といっています)のことで、ほかに掛物、掛軸、掛幅(かけふく)、掛字という場合もあります。琉球王国時代には、褒賞として国王から下賜された句や冊封使の書幅を、特に「御掛床」(おかけどこ)とよびました。書いてある言葉は、中国の古典漢詩・和歌・琉歌・和文・古人の格言・儒学や経典からの引用などがあります(画像②・③)。

②掛床「世濟其美」(1749):上江洲家蔵 G.Hカー撮影(1960頃)

●聯

聯とは、柱や壁などの左右に掛けてある細長い板や紙(または竹)のことで、漢詩の対句などが書かれています。漢詩は『聯句集』などをもとに、飾る場所にふさわしい句が選ばれました。

扁額・書幅・聯の歴史

扁額・書幅・聯の歴史は、3千年以上前に中国で成立した漢字の歴史と深くかかわっています。甲骨文(象形文字の一種)から発達した文字を基に、古の書家は、様々な書体を発明しました。それが「書」という芸術的分野の成立に大きく影響し、中国の文化や文明を伝達する力となりました。扁額・書幅・聯は、著名な文人や知識人が揮毫(きごう。毛筆で文字・絵をかくこと)し、特に扁額や聯では、墨書を元に彫刻したものなどがあります。これらは、琉球と中国や薩摩の外交の場、または国王から家臣へ下賜される貴重なものとして利用されていました。(NK)

参考文献：琉球大学附属図書館『琉球大学附属図書館報 びぶりお No.123』P.21 1999/琉球大学附属図書館・琉球大学資料館(風樹館)『平成26年度琉球大学附属図書館・資料館(風樹館)企画展 久米島のくらしと自然』P.6 2014/沖縄県教育委員会『沖縄県文化財調査報告書 第44集 歴史資料調査IV 扁額・聯等遺品調査報告書』1979



「涪陵周煌忠孝二大字」の情報はこちらから。どうぞらんください!!



③涪陵周煌忠孝二大字/書幅(掛軸)
琉球大学附属図書館蔵